

遺伝子医学 MOOK 23号 臨床・創薬利用が見えて きた microRNA

落谷孝広 監修
黒田雅彦, 尾崎充彦 編
メディカルドゥ/B5・236頁・5,500円

タンパク質の遺伝子配列を持たない non-coding RNA であるが、実は遺伝子転写制御をはじめ重要な機能を持つことが明らかになってきている。Non-coding RNA の中でも、特に近年 18~25 塩基長の小さな microRNA (miRNA) に熱いまなざしが

注がれている。miRNA は、ウイルスから動植物まで幅広く存在し、複数の遺伝子を標的とした発現レベルのファインチューナー的役割を担っており、エクソソームを介した細胞間の相互作用にも重要な役割を果たしている。

RNA は、本シリーズで数度にわたり取り上げられているテーマであるが、本書は特に注目の集まっている miRNA に焦点を絞った 1 冊である。がんをはじめとした疾患における miRNA の発現解析による診断から、miRNA の特徴を生かした治療・創薬への応用まで多岐にわたる内容が、今ま

さに最先端の研究に日夜取り組んでいる研究者によって執筆された渾身の著作である。各研究分野における創意工夫が惜しげもなく披露されており、専門の研究者でなくとも興味深く読み進めることができる。miRNA 研究は今まさに花盛りであり、読者はその魅力を垣間見ることができよう。

本書は、RNA 研究に従事している、あるいはこれから研究を始める研究者には無論のこと、創薬、医療に携わる広い一般読者にもお薦めしたい。

池田幸弘 Yukihiro IKEDA